



こうべ森の学校だより

No.89
2019年9・10月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

こうべ森の学校研修旅行

藤原 恒夫

10月11日、台風19号の進路を気にしながら湊川神社前に7時50分集合。バスの出発時間が近づいてきましたが、Aさんが未だです。携帯電話に掛けましたが・・・「オカケニナッタデンワバンゴウハ、ゲンザイデンパノトドカナイ・・・デングンガ・・・」地下鉄の中かな???でも、遅れる連絡は入ってないし・・・ひょっとしたら、お家の電話にかけてみた。すると奥様が出て、主人と変わりますので???あらま(・3・)



植物園

バスは9時30分に道の駅『但馬まほろば』でトイレ休憩。この時点でお土産を買っている人たちが!?!?たった今、丹波の枝豆が入荷したばかりで、搬入農家のオジサントークに乗ったようです。そして10時45分には第一目的地『たじま高原植物園』に到着です。朝食が早かったのでしょうか。「お腹が空いた」という声があちこちで。特に比較的年齢の高い方々から聞こえます。やはり森の学校の生徒さんは元気一杯です。

さて、園内では。日頃の植物観察魂が・・・「この花は、えーっ、何とかの何・・・」



コルチカム

中には、スマホで写真を撮って、アプリにかけると名前が解るとのこと。【コルチカム】【コルチカム】解ったぞえ!ホンマ便利な世の中になったもんです。でも、余計に名前が覚えられなくなるかも。まあ年寄りにはエエとし

ても、若い人はスマホなしでは前に進めないかも。我々年長者も、既に電話番号は覚えられない(^ ^):



熊の爪痕

散策コースの道端の木には、熊が爪をたてた跡が、鹿が食んだ跡が。モグラの穴が。再度山では見られないものがありました。植物も春夏と違った季節に来ると珍しいものに会えるでしょう。また訪れたいものです。

次は、待ち遠しい待ち遠しい昼食をとって、そこから近くの『木の殿堂』へ行きます。立派な施設でありますが無料です。木の香りが漂う館内。とても落ち着きます。

先ほどは生きた森林の中を歩きましたが、今度は森林の一部が加工された中での観察です。人の生活が感じら

れます。木のぬくもりを感じます。我々も除間伐材を使って再度公園内で木工作品を作っていますが、この



木のおもちゃ

館内にも工作室がありました。我々にとっても非常に身近な空間です。木工作品のおもちゃを手にとって、皆さん、童心に。とても楽しそうです。なかなかその場から離れません。時間が足りません。「こんなも出来るんや。これやったら出来るなあ」「チョット難しいで」「これ作るんやったらこの機械が要るわ」「欲しいなあ」「森学でも買える!?!」「なんぼする?」「来年の予算で買える?」

それぞれ、自分達の木工作業所に思いを馳せているようです。ということで、明日につながる研修旅行でした。楽しくもあり、有意義な時間でした。

鍋蓋山

林 功



小部岬付近の住宅街から見た鍋蓋山

鍋蓋山（486.2 m）は「六甲全山縦走コース」の約3分の1くらいに位置します。

高取山（328 m）を過ぎればいよいよ山岳コースに入り、菊水山（458.8 m）を越して有馬街道（428号線）に架かる吊り橋を渡ればすぐに待ち受ける急坂がこの山の取り掛りです。樹木に覆われゴツゴツと大き岩石の登路ですがやがて眺めも良くなります。頂上の広場は平坦で菊水山や神戸の風景を広々と眺められ、ホット出来る地点ですが、全山縦走者たちにはしばしの息抜きの場所でしょう。

この山が何故「なべぶた」という名が付いているのかが私には分かりませんでした。この写真は有馬街道の小部（おぶ）岬を西に入った住宅街から見た景色ですが、たしかに緩やかな山並みや真中のツマミの様な突起から“鍋の蓋”が想像出来ます。

神戸の街から、また丹生山系、六甲山系の峰々からもこの形は観たことがありませんでしたので、昔誰かがこの辺りから眺め命名したのか、と勝手に想像しています。鍋蓋

の姿がそれと見える地点を知っておられる方あれば教えて下さい。

私たちのウィークデイ活動日に再度公園から全山縦走路（鍋蓋パノラマ道）出会いま



鍋蓋山頂の標柱

での手入れ作業に取り掛かったのは約4年程前でした。「少花粉杉」の植栽地辺りから徐々に進み、出会い地点に近づけば近づくほどログハウスから遠くなりました。ログハウス（385 m）から出会い辺り（約450 m）までの高低差約80 m、距離は約1kmですから往復の時間と労力を考えて、昼ベントウ持参の方々もおられました。

いつの間にか縦走路との出会い地点周辺にまで到達すると、道の両サイドはとても明るくなりました。春にはコバノミツバツツジやサクラが美しく、多くのハイカーから「とても綺麗になりましたね」と労いの言葉を頂きました。

出会い地点は、この写真ではツマミのすぐ左であることを知り今更ながらの気持ちです。



菊水山から見た鍋蓋山



9月14日 例会の集合写真

台北近郊の山

佐脇 遥子

9月19日から23日まで四泊五日で台湾に行ってきました。台北市に宿泊して近郊の町を日帰りで訪ねる旅行でした。



台北市内の街路樹

台湾に着くと緑の多さと濃密さに圧倒されます。湿度のせいか濡れたようなみずみずしさを感じさせる緑がさまざまな色合いで何層にも重なり、台北市内でも熱帯特有の枝から気根が垂れ下がる大木がそこそこに見られます。住宅地の一面にも、立ち並ぶ住居に囲まれて堂々たる大木が枝を広げ、赤い字幕や提灯で飾られていたりします。日本のご神木みたいな感じですね。ビルが立ち並ぶ都会でも大木はあちこちに残され、大事にされているようです。



猫空ロープウェイ 彼方には台北101

台湾の山というと、阿里山のような中南部の大きな高い山が知られていますが、台北市も神戸市のように気軽にすぐに登れる山を擁しています。観光地としても有名な猫空（マオコン）山は猫空ロープウェイですぐに上がれます。本当に神戸と同じですね。夢風船よりもかなり大きい感じのある6人乗りのかごに乗りますが、普通の床とガラス張りの床の二種類あり、ガラス張りのほうは行列にしばらく並ばなければ乗れません。山に上がると、自然遊歩道が何種類かつくられ、地図を見ながらまわりますが、これも六甲山にちょっと似ています。猫空山には茶畑がたくさんあり、あちこちに茶園もあって、腰を降ろして台湾茶や自家製アイ

台湾に着くと緑の多さと濃密さに圧倒されます。湿度のせいか濡

台湾の山というと、阿里山のような中南部の大きな高い山が知られていますが、台北市も神戸市のように

スクリームなどを味わうことができます。茶畑コースは観光客でいっぱいですが、ちょっと奥のほうの遊歩道にはいると、人がなくなり原生林のなかを歩くことになるのも六甲山に似ています。完全な原生林のなかの歩道には木や竹で作られた古代の楽器が並んでいて、ひとつひとつじっくり見て楽しめます。

台北市にはほかにも象山、獅子山、豹山、虎山という山が南東にあり、象山には頂上まで階段が設置され、ハイキング気分です。今回は行けませんが、次の機会にはぜひ登ってみたいと思います。



鶯歌石

今回は台北市近郊の鶯歌（インダー）という町を訪ね、町の名前の由来にもなっている鶯歌石という巨石を見にいきました。住宅地のすぐ裏側から長い階段を上った原生林の山が巨石になっていて、山肌と思っていたものが岩肌でした。大きめのくぼみにはとっくりと杯といった供え物がされて祀られており、信仰の対象となっているようです。この巨石が鳥のインコ（鸚哥）の形に似ているところから、鸚哥石から字と音が変わって現在の鶯歌石になったという説明がありました。ここも原生林の濃密な緑に覆われた岩肌のあいだから下の街並みが望め、自然と人間の文化との共存を感じられるいいポイントでした。

台湾はどこも街のなかに自然の草木や風景がはいる感じ、日本の田舎や六甲山を思わせます。あまり外国という感じがなく気軽に楽しく散策でき、ちょっとエキゾチックな気分も味わえるお得感満載の旅行先でした。

モンゴル森林再生プロジェクト

藤原 恒夫



9月12日 モンゴル国から森林再生プロジェクトの一環として、モンゴル科学アカデミー地球生態学地理学研究所 森林資源保護室から、研究生2名 Ganbat Dashzeveg 氏と Batdorj Dovdondemberel 氏がこの森を訪れました。8日間、兵庫県に滞在し、この日は①六甲山再生の歴史や②森林ボランティアの活動等を視察しました。①は森林整備事務所でレク

チャー、②は西山で活動の様子を熱心に視察されました。木工作业所やボートハウスの見学も。

我々のモンゴルのイメージは草原を思い起こしますが、1996～1997年に大規模森林火災が発生し、同国から森林再生支援の要請がありました。阪神淡路大震災の際に同国からの支援の感謝を込めて要請を受けることになったということです。



■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
8月18日(日)	37名	上田 武司さん	6名	14名	4名	3名
9月14日(土)	46名	谷本 幸三さん	11名	14名	9名	4名

東お多福山の活動



アクティブレジャーの中村さん



眼下に広がる奥池の住宅地

10月2日(水)
東お多福山草原保全・再生研究会の活動に参加しました。

環境省自然保護官事務所の高橋さんが転任され、後任の中村さんのご挨拶がありました。

今回から中里さんと佐脇さんが刈払機班に加わりました。今後の活躍に期待しています。

こうべ森の文化祭 2019

10月27日(日)10時～15時再度公園ログハウス前にて「こうべ森の文化祭2019」が開催されます。森の手入れ・植樹体験・炭焼き窯の窯開見学など多彩な行事を用意して皆様のご来場をお待ちしています。



お知らせ・掲示板

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん
(活動日の問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ
(活動日の問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか
森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

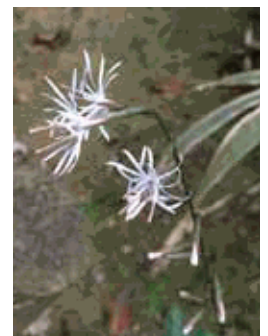
- ・月例会 11月9日(土)・12月15日(日)
午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。
- ・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記 いつまでも暑かった長い夏がようやく終わり、涼しい風が吹きはじめました。朝晩の気温もぐんと下がり、山を歩くと秋らしい花や実が目につくようになりました。

10月2日の水曜日に東お多福山で秋のササ刈り活動が行われました。この日はまだ夏のように暑い晴天に恵まれ、東お多福山の頂上からいい眺めが得られました。年に数回ササを刈りますが、夏のあいだにグンと伸びたササが青々とした葉を風に揺らしている風景は憎らしくもありますが、きれいでもあります。このしぶとさは見習うべきかもしれないとすら思うことがあります。

冬に陽射しが地面に当たるようになったおかげで、春のスミレ、秋のリンドウなどがあちこちに見られるようになりました。今年は兵庫県のレッドデータリストに載っているテイショウソウの花も見ることができました。地道な活動を長期にわたって着実に続けることで、ちゃんと成果は見えてきています。森の手入れも同じように成果がはっきりと見えるから、こちらもがんばろうと思えます。たくさんの人があまり無理にならない程度に息長く続けることができれば、活動のすそ野も広がっていきそうです。



テイショウソウ

(佐脇 遥子)